

〈解答〉

- ① 1 ア
2 エ
3 弟に早起きを命じ、幼虫がかえりだしたら起こすようたのむ(こと)。(27字)
4 ア

配点 ① 1、2は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 「羽が薄茶色になってきた」という弟・ミトの指摘によって、「おかしい」と感じた「ぼく」であったが、朝ごはんを食べた後に、「すごいものを見せるからと、兄を引っばっていった」とあることから、ミンミンゼミが羽化したと信じ切って、浮かれている「ぼく」の様子がわかる。つまり、「ぼく」は多少の違和感を覚えたものの、ミンミンゼミが羽化したことについては、まったく疑っていないということである。
- 2 エ「優越感」は、「自分が他人よりすぐれているという感情」をいう。傍線②の直後にある兄の会話文に「お前ら知らなかったのか」とあるのに注目し、この言葉から、自分が知っていたことを誇らしく思う兄の気持ちを読み取る。
- 3 本文の四～五行目にある「兄貴の特権を利用してミトに早起きを命じた。そして、幼虫がかえりだしたら起こしてくれとたのんだ」という部分をまとめる。自分は早起きをせず、羽化の瞬間のよいところだけを見ようとしたことを、「楽しようとした」と表現しているのである。
- 4 羽化したばかりのセミの様子を、「妖精のように神秘的だった」、「生まれたてのものはエメラルドの針金で作ったみたいだ」、「天使の羽というのは、きつとこのようなものなんだろう」と、比喻の連続によって表現することにより、「ぼく」が、羽化したばかりのセミの美しさに、どれほど魅了されているかが、読み手にも伝わってくるのである。こうしたことから、アを導き出す。また、イ「擬音語や擬態語を多用し」、ウ「『ぼく』と『ミト』の視点を交互に入れ替える」、エ「当時の自分を批判的に描いている」の部分が適当ではない。